



虜囚《野獣の書②》
The Captive (1981)
ロバート・ストールマン (宇佐川晶子訳)
早川書房(文庫)(7/
31刊・¥360)

野獣三部作の第二部。しだいに成長する野獣(正体不明の生き物)は、今回青年の姿に変身して、人間の女性と結婚してしまう。しかし、妻の前夫は、執拗に夫婦をつけねらい、妻を誘拐する。そこで、主人公野獣は、西村寿行ばりの復讐心に燃え、追跡行を開始する……。

とにかく面白い。それは間違いない。滞りなく読み進められる。前回は青春小説風だと書いたけれど、今度はもう少しアクションが加わる(もちろん、アクションだけの小説ではない)。アイデア主導でもなく、人間はよく描き分けられているがやや典型的、となると、やはりこの三部作の魅力は、大衆小説的なストーリーテリングにあるのだろう。謎だらけの主人公野獣の秘密が、物語の軸になり切らない点、SFじゃない、と思われる原因がある。ただ、そこにこだわったところで、これ以上に物語の深みが増すとも考えにくい。ちょっと気になったのは、前回も強盗に襲われそうになると野獣に変身、本書でもアメリカカナチスに殺されそうになって野獣の登場と、ハラハラドキドキのお話が、少々出来すぎであるところ。

(後)